

No. 1184

三木、改造内閣スタート

三木

国民不在のまま、6月から延々と続けられた自民党内の政権抗争。三木派と反三木派は自民党を割らないと言う最低の妥協を見せ、9月15日三木首相は党三役及び内閣の改造に着手した。しかし、三木首相が意図した松野幹事長に反三木派が反対、またしても厳しい対立をさらけ出した。二転、三転のち内田幹事長、松野総務会長、桜内政調会長を決定。新しい改造内閣は福田副総理、大平蔵相の留任をはじめ、主要閣僚が留任し、派閥順送りの清新味に欠ける内閣となった。一時しのぎの末期的症状を示す三木内閣、その前途はけわしい。

台風17号

被災地に行く

五時

台風17号は西日本を中心に連続6日間、記録的な集中豪雨を降らせた。被害は東海以西各地におよび、岐阜県では長良川の右岸堤防が決壊、安八郡、安八町の全域が水没した。住民たちは濁流に吞まれて行く家を捨て近くの学校や公民館に避難。

被害の大きさに各地から救援物資が続々と到着、やっと被災者は差し入れのおにぎりの味に我が身をとりのどした。

今度の長良川の堤防決壊はだれもが「まさかっ」と思っていた出来事。しかし上流に降った雨は史上最高となり、五日連続の異常出水を招いて、堤防がヨレヨレになっていたのだ。

ようやく台風が去り長良川の水位が平常にもどり、復旧工事が急ピツで進められた、しかし水の干いた安八町は泥海と化した被災者たちは濁流に流れ果てた我が家に戻ってきた。

被災者の話「まさか切れるとは思いませんでした。切れた時は水の中を走った。これで何も残ってはいない家族が無事だったのが唯一の救いだ」。

安八町より下流にある輪の内町、輪中堤防ががっちり被害を食い止めた。何百年も水に悩み、水と闘い自らの手で備えた輪中堤防、人々の体験とねばりが水を止めた。

伊勢湾台風では決壊しなかった長良川堤防、しかし今度は思いもよらぬことが起った。家や田畑は濁流に吞まれ、人々はすべてを失った。

すべてが異常だったこんどの災害、ひとつの科学の神話が消えた。